

これからも金融のプロとして生きていきたいと考えていたので『この銀行には今までの仕事を活かせる場があるから、あなたのスキルを生かして欲しい』と言ってもらえたことが、転職を決めたきっかけでした」

地域の顔。支店長に抜擢

その後37歳で管理職となり、2011年の4月、大田区下丸子支店長に昇進。「現場が好きだったので、管理職という立場にこだわっていませんでしたが、上司から『あなたの培ってきた仕事のスキル、DNAを持つ部下を育てて欲しい』と言われ、それに応えることにしました」

44歳という若さ、それも女性でメガバンクの23区内の支店長というポジションを与えられたことは名誉であると同時に、重い責任も伴うはずだ。

金融のコンサルタントとしてお客さまと直接やりとりする仕事だった頃は、夜眠るとお客さまの夢ばかり見ていたのですが、支店長となつてからは「お客さまに加え、私にとつての家族でもある行員・スタッフの夢も見るようになりました。時にはうなされま

す」と笑う飯嶋さん。誰にでも真摯に、誠実に向き合う彼女の姿勢が見てとれます。

全国の支店でも、部長・支店長職の女性は33人。まわりの反応について聞いてみました。

「『支店長が女性?』とまず言われますね(笑)。でも、それで損をしたことはありません。逆にやわらかいイメージを持たれるのかもしれないね」

ご自身で気をつけていることは「地権者の方や法人オーナーなどに接している『支店長が女性』ということを意識されているな』と感ずることがあります。その場合は心許ないとか、不安に思われないう、とくに注意して接客するようにしています」



女性が働きやすい職場

現在、銀行全体では従業員の男女比はほぼ半々、下丸子支店は女性が多いそうです。その点について「女性が元気の職場ですね。当店では女性が自らつくってきたルールが増えていき、尊重されていると日々感じます」と飯嶋さん。

「育児休暇などの制度は利用しやすい環境ですか」との質問には、「そうですね。今は結婚、出産を機に退社する女性は少ないですし、制度は利用しやすいと思いますよ。派遣社員の方が利用する場合も社員がサポートするなど、融通し合います。ただ、働く人数が絞られ、一人一人の仕事の価値が上がっている今は、一人抜けると代償が大きいのも事実。管理職の立場からすると、そこに気を遣いますね」

チームワークを大切に

「若い女性支店長ゆえに、年上の部下、とりわけ男性の部下への指導、付き合い方が難しいのではないか」の質問には、「自分より総合職のキャリアが長い男性の部下もいます。大勢の人

の前で怒ったりしないとか、自分なりに部下のキャリアや個性に応じて気をつけています。部下でも、その人のキャリアを尊敬し、教わったりすることもたくさんあるので、そういう時は素直に『教えて』と言いますね」

大学の専攻は日本文学。もともとは引つ込み思案で聞く側に徹する性格だという飯嶋さん。確かに、「若くして抜擢された、メガバンクの女性支店長」という人を取材する前に勝手に想像していたアグレッシブなイメージとは正反対ともいえるしなやかな物腰、対応に驚かされました。

「私のリフレッシュ法は走る」という飯嶋さんは、フルマラソンやその他のレースにも度々出場し、また、休日は地元横浜の坂道でトレーニングをするので仕事のストレスを発散し、頭の中の整理をしているそうです。

大手証券会社の破綻、金融のプロとして顧客と向き合う日々、そして、転職と管理職や支店長としての重圧……さまざまなハードルを乗り越えながら、今日も走り続ける飯嶋さんは、キャリアコースの真っ只中にいる人ならではの「輝き」を放っていました。

